

寒い時期の出荷ロスを減らせるキャベツ品種を選定しました



図1 キャベツの球の中に発生した黒い傷み

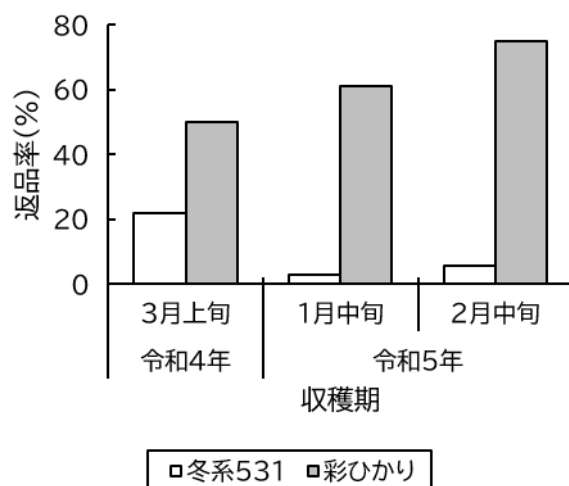


図2 黒い傷みが原因による返品率
(出荷基準に基づき、症状が重度のものを返品相当とした)

開発のねらい

加工・業務用のキャベツは、寒さが厳しい時期に収穫すると、外から分かりにくい黒い傷みが球の中に出ることがあります（図1）。そのため、出荷できる量が安定しないことが課題でした。そこで、寒い時期でもこの傷みが出にくい品種を選びました。

新技術の概要

- 「冬系531」は従来の「彩ひかり」と比べて、寒い時期に起こりやすい球の中の黒い傷みが少ない品種です（図2）。
- 玉の大きさは従来品種とおおむね同程度で、安定した出荷につながります。

活用場面

寒い時期に収穫するキャベツづくりで、品種を選ぶ場面で役立ちます。球の中の黒い傷みによる出荷ロスを減らせ、加工・業務用キャベツの安定供給につながります。